の三縁起や御神体髪のほか、延宝年間（一六七三～八〇）の改築とされる神社本殿は三間社流造、唐様の三手先組、木鼻や欄間などに彫刻が施され、外部は丹塗仕上げで市指定有形文化財である。御手洗山は「洲崎神社自然林」として、昭和四十七年（一九七二）県指定天然記念物となった。随身門は宝永年間（一七〇四～一一）の建造、中の矢大臣・左大臣像は明治三年（一八七〇）の作とされている。

境内社

稲荷神社　祭神は宇迦之御魂命（倉稲魂命）　殖産興業の守護神

金比羅神社　祭神は金毘羅大神　海上・航海安全の守護神

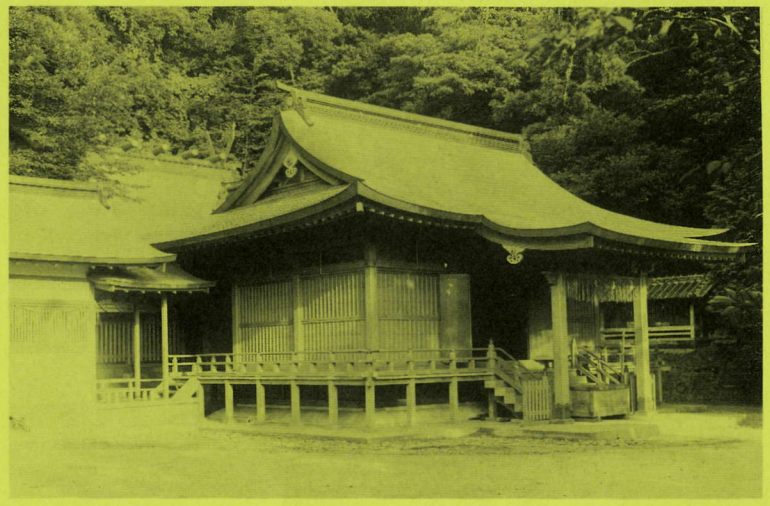
長宮の祭神　右より大物主命（大国主命の和魂）　農工商・医薬の神

建速須佐之男命（素戔嗚命）　開発・植林の神

大山津見命（大山祇命）　山をつかさどる神

豊玉彦命　海をつかさどる神

洲崎神社　社務所（館山市洲崎一三三四番地　☎〇四七〇―二九―〇七一三）



式内大社

洲崎神社

参拝の枝折

鎮座地

千葉県館山市洲崎の御手洗山に鎮座。御手洗山は標高一一〇メートル、洪波万里・黒潮躍る太平洋を一望し、富士の霊峰、大島の御神火を指呼の間に望む風光明媚な山稜で、神社山とも呼ばれている。

御祭神

平安時代の延喜式神名帳に、后神天比理乃咩命神社とあり、安房神社の御祭神天太玉命の后神を祀る式内大社で、元の名を洲ノ神と称した。

御由緒

神武天皇の御代、勅命により天富命が四国の阿波の忌部族を率いて房総半島を開拓され、忌部の総祖神天太玉命を祀ったのが安房神社で、后神天比理乃咩命の奉持された御神鏡を神霊として祀られたのが洲崎神社である。奈良時代の養老元年（七一七）大地変のため境内の鐘ケ池が埋まり、池底の鐘を守っていた大蛇が災いをしたので、役ノ行者が七日七夜の祈祷をして、明神の御神託により大蛇を退治して災厄を除いた。鎌倉時代の治承四年（一一八〇）源頼朝が参籠して源氏の再興を祈念し、寿永元年（一一八二）に妻政子の安産を祈願して、広大な神田を寄進している。室町時代には江戸城を築いた太田道灌が、鎮守として当社の分霊を奉斎したのが神田明神の攝社八雲神社の前身とされ、今も疫病を防ぐ神として崇敬されている。里見七代義弘は社領五石を寄進、徳川幕府も朱印状で安堵している。江戸時代後期の文化九年（一七九七）房総の沿岸警備を巡視した奥州白河藩主老中松平定信が当社に参詣して、「安房国一宮洲崎大明神」の扁額を奉納されている。

御神徳

御神階は七十二代白河天皇の永保元年（一〇八一）正一位に、九十一代後宇多天皇の弘安四年（一二八一）に元冠の役の功により勲二等に叙せられ、明治六年（一八七三）県社に列せられた。数々の御霊験から、古来安産や海上安全、交通安全、厄除開運の守護神として、また漁業や農業の殖産興業の神として深く崇敬されている。

御祭事

祭礼は二月の初午と、八月二十日、二十一日の例大祭で、共に国の文化庁選択記録保存、県指定無形民俗文化財の「洲崎踊り（鹿島踊りと弥勒踊り）」が奉納される。八月の例大祭には、百五十の石段を降りる勇壮な大小の神輿の渡御があり、海上安全・大漁祈願の浜祈祷が行われる。

文化財

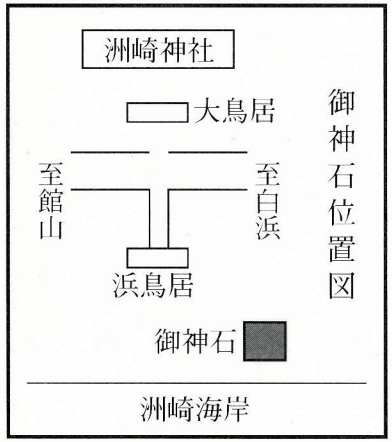
社宝である養老元年（七一七）万治二年（一六五九）宝暦三年（一七五三）

洲崎神社の御神石

御神石は、その昔、役行者が飛来し、海上安全のために一つを洲崎の地に、一つを現在の横須賀市吉井の地に置いていったという伝説と、竜宮より一対の大きな石が洲崎神社に献上されたが、ある時、その一つが天太玉命の御霊代として東国鎮護のために吉井の地に飛んでいったという伝説が残されています。吉井に飛んでいった御神石は、同所鎮座の安房口神社の御神体としてお祀りされ、両御神石は互いに向かい合ってお祀りされていて「阿（安房口神社）吽（洲崎神社）の石」と呼ばれています。

この洲崎の地は、文字通り洲の先であって外洋と内海を分ける位置にあり、岬の沖合いは「汐の道」と呼ばれ、昔から海の難所でした。また吉井の地は、房総への重要な交通路であり、古道の要所であったため、この様な伝説が残されてきたと思われます。

何れにしても両御神石は、昔より海上安全の守神として人々より篤く信仰されてきました。



神社より徒歩3分程度

洲崎神社自然林

当社の鎮座する御手洗（みたらし）山の西斜面は、神社の神域として氏子の信仰の対象となっているところです。そのためいまだかつて斧を入れられることもなく、自然林として保たれてきました。

この自然林は、上半部と、下半部では多少林相を異にし、上半部はヒメユズリハ・スダジイ・タブノキなどが混生し、雑木林的な傾向を示しているのに対して、下半部はスダジイが優占し、遷移のすすんだ林相を示しています。

下半部のスダジイ林の階層構造は、高木層にスダジイ、亜高木層にイヌビワ・イヌマキ・シロダモ・ヤブツバキ、低木層にイヌビワ・ヤブニッケイ・トベラ、草木層にテイカカヅラ・フウトウカヅラ・ミゾシダ等がそれぞれ優占しています。

ここは海岸に近く外洋からの潮風を強く受ける風衝地で、樹齢の割りに樹高は低くなっています。

照葉樹林帯に属する千葉県内で、このスダジイ極相林は大変貴重な自然林として昭和四十七年九月二十九日に県指定天然記念物に指定されました。

（南房総データベースより）

また、千葉県とNPO法人樹の生命を守る会との協働事業により進められてきた県内に残る貴重な自然林として「千葉県の巨樹・古木二〇〇選」に平成十八年三月に選ばれました。

この自然林を貴重な県民資産として氏子を始め皆様のご協力を頂き次世代に守り伝えて行きたいと思います。